

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

AA 研共同利用・共同研究課題「東南アジア大陸部地域語彙の類型論的研究」

2021 年度第 1 回研究会（通算第 6 回目）報告書

日時：2021 年 7 月 18 日（日）13:30-16:00

場所：オンライン

使用言語：日本語

主催：基幹研究「多言語・多文化共生に向けた循環型の言語研究体制の構築（LingDy3）」

1. 新谷忠彦（AA 研共同研究員，AA 研フェロー）

「言語調査と調査票」

2. 全員

「全体討論」

今回の研究会では新谷忠彦氏から以下の報告をいただいた。

新谷忠彦（AA 研共同研究員，AA 研フェロー）

「言語調査と調査票」

言語調査にはどのような形であれ、調査票が必要となる。既存の調査票はたくさん出ているが、いずれも様々な欠陥を持っている。文化が違えば言語も違って来るわけだから、調査対象地域に適した調査票の作成が必要となる。その際に検討すべき要素として、

（1）時間とお金は誰にとっても有限であり、限られた時間と予算の中で、やることに優先順位をつけて、目的に対して最大限の成果をあげなくてはならない。したがって、調査の目的が何かをはっきりすることが先ず必要であり、調査項目が多ければいいとは限らない。

（2）調査に応じてくれる人の立場を考える必要がある。つまり、調査者と調査対象者の文化の違いに留意し、無駄なように感じても、時には雑談できるような個所を設けておく必要がある。個人情報、宗教・信仰関係には十分な注意が必要である。

（3）「身体名称」には「性」に関する部分が不可避である。たいていの調査票は「身体名称」から始まっているが、調査を始めてすぐに外国人が「性」の話を持ち出したら相手はどう感じるだろうか。

（4）研究対象としている「タイ文化圏」では、常に当局から監視されており、行きたいところへ自由に行けるわけではない。情報当局、秘密警察などに対する対処法は常に考えておく必要がある。調査項目にもこの点が反映されている必要がある。

以上の諸点を考慮し、Chinese Linguistic Project of Princeton University (1972), *Handbook of Chinese Dialect Vocabulary* をベースに、項目を大幅に削除した（約 6,000 項目から約 2,000 項目に）うえで、「タイ文化圏」に必要と思われる項目（約 500 項目）を追加した。更に、すべての項目に 6 桁のコード番号を付け、index を容易にするとともに追加・削除を容易にした。これで、経験を積みながら常に進化できる形になった。best は不可能だが better は可能である。大見出しの順序をそのまま維持することによって「身体名称」はほぼ中間に位置しており、調査対象者との関係がだいぶ慣れてきたところで「性」に関する調査ができる。この地域の言語には「類別詞」が重要であり、新たに「類別詞」の項目を設けた。日本語、英語のほかに、媒介言語として、タイ語（シャン/クン）、緬甸語、漢語（繁体字、拼音）、タイ王国語、ジンポー語、マトゥワン語も準備した。一言語 2,000 項目程度採取することを目標とするが、経験上、短時間でこれだけ収集するのはかなり難しい。

こうして作成した主調査票のほかに、補助的な調査票として、極めて短い時間しか調査できない場合に使う「300 語調査票」も用意した。更に、タイ系言語、ミャオ・ヤオ系言語、カレン系言語、漢語、ベトナム語などは初頭子音の無声化に伴う声調分岐という現象が起こっており、それらの声調体系をいち早く知るための「声調調査票」も準備した。

以上のような経緯で作成された調査票を使い、「タイ文化圏」でデータの乏しい言語の調査を続けてきた。

自然科学で重要なことは観測と実験である。歴史音韻論研究では実験室で実験することができない。知り得ることは、言語音が変化した結果でしかない。従って、自然科学で、できるだけたくさんの観測データと実験データが重要なものと同じく、歴史音韻論では、できるだけたくさんの言語・方言のデータを収集することが重要である。1980 年代からの世界のレジームチェンジにより、これまで政治的・地理的な理由から調査が難しかった言語の調査も少しずつできるようになり、データが乏しいたくさんの言語データが蓄積でき、整理しながら公開を続けている。

（発表要旨は発表者による）